

新日鉄—宝鋼友好協力 30



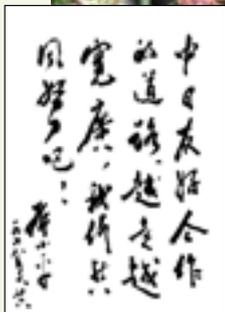
鄧小平副総理来日、君津製鉄所を視察（1978年）



鄧小平副総理の揮毫

中日友好合作的道路、越走越宽广、我们共同努力吧！

「中日友好合作の道は、進めば進むほど、ますます広がる。我々は共に努力しましょう」



新日鉄と宝鋼の歩み

- 1972年 日中国交回復
武漢製鉄への技術協力プロジェクトの開始
- 1977年 中国政府より大型一貫製鉄所建設への協力
要請を受けて、プロジェクト開始
- 1978年 鄧小平副総理が来日、君津製鉄所を視察
宝鋼建設プロジェクト第一期起工式
- 1985年 宝鋼第一高炉火入れ
- 1986年 第二期建設プロジェクト開始
- 1991年 第三期建設プロジェクト開始
- 2003年 宝鋼新日鉄自動車鋼板有限公司(BNA)の
合併契約書の締結
- 2004年 BNA 設立
- 2005年 BNA 稼働開始
- 2007年 新日鉄—宝鋼友好協力 30 周年

周年

日中国交回復35周年を迎えた2007年は、新日鉄が中国の宝鋼集团有限公司(宝鋼)への技術協力プロジェクトを開始して30周年の節目の年でもある。この30年間に両社は一歩一歩協力を進め、2004年には合併で自動車用鋼板の製造・販売会社「宝鋼新日鉄自動車鋼板有限公司」を設立するなど、パートナーシップを築き上げてきた。本特集では両社の30年の歩みを紹介する。

35年前の1972年9月29日、日中共同声明の調印式が中華人民共和国の北京で行われ、田中角栄首相と周恩来総理が署名し、日本と中国が国交を結ぶこととなった。その年、新日鉄の稲山会長を団長とする日中経済人訪中団が中国を訪問し、日中国交回復の産業界の象徴的プロジェクトとして新日鉄による武漢製鉄への技術協力プロジェクトがスタートした。

そして1977年11月に稲山会長を代表とする日中長期貿易協議委員会が訪中した際に、李先念副総理より、武漢への協力に対する謝意と新しい大型一貫製鉄所建設に対する協力要請があった。これが新日鉄による宝鋼への技術協力プロジェクトのスタートだった。グリーンフィールドに一貫製鉄所を建設するという壮大なプロジェクトに伴う幾多の困難を乗り越えて、宝鋼第一高炉は1985年9月に火入れを行い稼働開始。



宝鋼建設プロジェクト第一期起工式における稲山会長の挨拶(1978年)



建設が進む転炉工場(1979～1980年)



火入れ前の宝鋼第一高炉(1984年)



君津製鉄所で研修する宝鋼の操業技術者(1985年)



大分製鉄所で研修する宝鋼の操業技術者(1985年)



第一高炉火入れ式で点火する戸田副社長(1985年)

1970年代半ばの中国の粗鋼生産量はわずかに年間約2,500万トン程度だったが、その中で宝鋼は、年産能力300万トンを持つ最新鋭の製鉄メーカーとして中国近代化の幕開けを担った。

その後、宝鋼拡張計画への一部参画を経て、2003年7月、新日鉄と宝鋼は、近年急速な伸張を見せる中国国内の自動車用鋼板需要に応えることを目的に製造販売会社の設立意向書を交わし、同年12月にArcelor社(現 Arcelor Mittal)も加えて合弁

契約を締結した。そして2004年7月に宝鋼新日鉄自動車鋼板有限公司(BNA)が設立され、2005年半ばには生産を開始した。BNAは製販一貫体制のもと、現地自動車メーカーに対して高品質の自動車用鋼板と関連サービスの提供を行っている。

2007年、新日鉄と宝鋼は友好協力30周年を迎えた。今後も新日鉄は中国をはじめとして、世界にグローバルサプライネットワークを構築していく。



宝钢三期の設備供給契約調印式 (1994年)



現在の宝钢製鉄所外観 (2007年)



BNA 設立契約書締結式における千速会長と謝企華董事長 (2003年)



BNA 開業式の記者会見における三村社長(左から2人目)と徐榮江董事長(右隣) (2005年)



現在のBNA外観 (2007年)



BNAの工場風景 (2007年)

BNA 概要

- 名 称：宝钢新日鉄自動車鋼板有限公司 (BNA)
- 所 在 地：宝钢構内
- 従業員数：約 650 名 (新日鉄派遣者 17 名、Arcelor Mittal社派遣者 3 名)
総 経 理：姚林龍 (宝钢)
副総経理：横山雄治 (新日鉄)
- 資 本 金：30 億人民币 (約 420 億円)
(宝钢 50%、新日鉄 38%、アルセロールミッタル 12%)
- 事業内容：自動車用を中心とする冷延鋼板、溶融亜鉛めっき鋼板の製造、販売